



# 乗用車の平均車齢は8.13年、 平均使用年数は12.64年へとさらに長期化 自検協、「平成26年版わが国の自動車保有動向」を発行

自動車検査登録情報協会は10月15日、「平成26年版わが国の自動車保有動向」を発行しました。

同書によると、26年3月末日時点での軽自動車を含む自動車保有台数は、前年同日時点の79,625,203台よりも0.81%、647,368台多い80,272,571台と、3月末日時点としては初めて8千万台を超えました。

そのうち乗用車は、同じく694,115台多い60,051,338台でした。さらに内訳を見ると、普通車が289,105台多い17,586,128台、小型車が477,412台少ない22,234,915台、軽自動車が882,422台多い20,230,295台となっています。このことから、小型車が減少傾向にある中で、軽自動車が保有台数増加をけん引していることがうかがえます。なお、貨物車は102,400台少ない14,749,266台でした。

平均車齢（軽自動車を除く）は、乗用車が

8.13年で前年より0.06年長期化し、22年連続で高齢化するとともに、20年連続で過去最高齢を更新しました。車種別では普通車が0.01年と4年ぶりに若返り7.78年に、小型車は0.12年高齢化し8.40年となっています。貨物車は同0.20年高齢化し10.93年となり、こちらも21年連続で過去最高齢を更新しました。

平均使用年数（軽自動車を除く）は、乗用車が前年より0.06年長い12.64年、貨物車が0.07年長い13.31年でした。乗用車の車種別では、普通車が12.97年で0.02年短縮される一方、小型車が12.44年と前年より0.12年長期化しました。

普通乗用車では2010年のスクラップインセンティブを伴うエコカー補助金の影響がやや見られるものの、全体的には自動車の長期使用化が一段と進んでいることを示す結果となっています。

また、PHVを含むハイブリッド車の保有台数は前年より34.0%、974,276台増

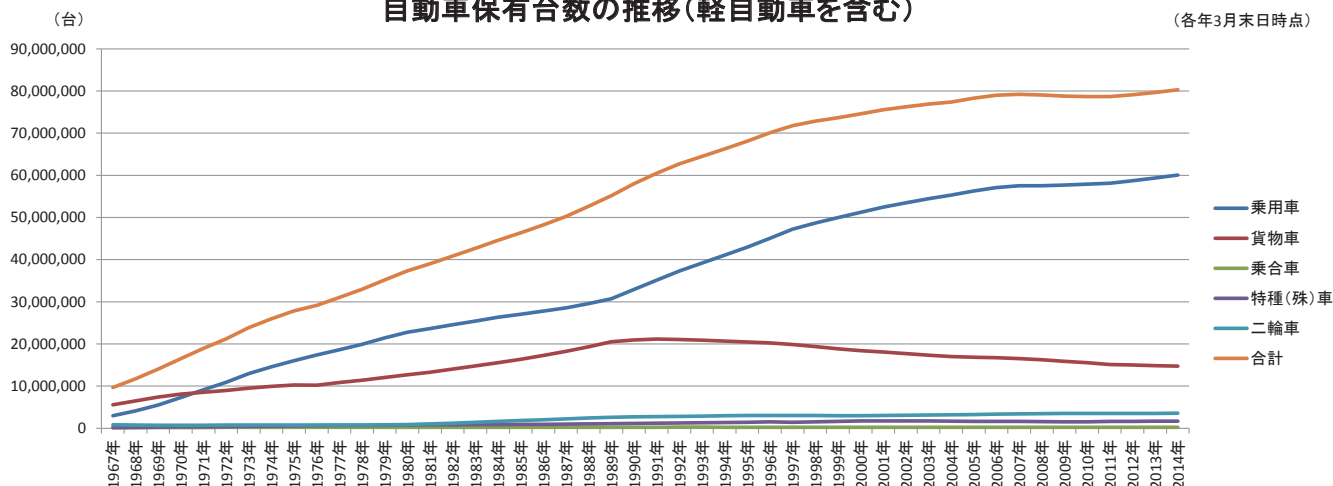
え、3,843,378台に。EVは同54.6%、13,832台増の39,168台となり、次世代自動車の普及が急速に進んでいることをうかがわせました。

乗用車の塗色別保有台数は、白が18,907,554台・構成比47.48%と最も多く、次いで灰(9,508,033台・同23.88%)、黒(5,162,453台・同12.96%)、青(2,485,291台・同6.24%)、赤(1,554,168台・同3.90%)、緑(669,605台・同1.68%)、茶(592,729台・同1.49%)、紫(489,553台・同1.23%)、黄(324,833台・同0.82%)、橙(123,636台・同0.31%)、その他(3,188台・0.01%)の順でした。

対前年比では紫が12.32%、黒が5.99%、赤が3.11%、橙が2.77%、茶が2.08%増えております。絶対的なボリュームはまだ少ないものの、鮮やかな濃色系のボデーカラーを選ぶカーオーナーが着実に増え始めている傾向が見て取れます。

自動車保有台数の推移(軽自動車を含む)

(各年3月末日時点)



\*乗合車：バス \*二輪車(125ccを超えるオートバイ)：小型二輪車と軽二輪車

自工会、「東京モーターフェス2014」を開催

## 自動車整備人材確保・育成推進協議会が「サービスエンジニアコーナー」に協力

日本自動車工業会（池史彦会長）は10月11日（土）から12日（日）の2日間（13日は台風19号上陸のため中止）、東京・お台場の青海NO地区および船の科学館駐車場で、「東京モーターフェス2014」を開催しました。

これは、2012年7月に開催された「お台場学園祭」、2013年11月に第43回東京モーターショーと併催された「お台場モーターフェス」に続く、クルマ・バイクファンの裾野を広げるための体験型イベントです。今回は自工会会員13社のほかメルセデス・ベンツ日本、ビー・エム・ダブリュー、BRPジャパンも出展し、クルマ・バイクの楽しさを体験・試乗できるコンテンツを大幅に増強して、「これまで以上にクルマ・バイクの魅力をストレートに訴求」（池会長）しました。

コンテンツは、クルマ・バイクを主役にした様々なステージコンテンツを展開する「デモコース・ゾーン」、試乗を充実させ大人も楽しめるコンテンツを集めた「ドキドキ・ゾーン」、免許がない子供も楽しめるコンテンツを集めた「ワクワク・ゾーン」、最新車種に乗ってお台場の公道をドライブしたり駐車支援を体験できる「ドライブ・ゾーン」からなる4つのゾーンに分けて設営されています。

そのうち「ワクワク・ゾーン」で展開され、自動車整備人材確保・育成推進協議会が運営に協力した「サービスエンジニアコーナー」では、子供たちが整備士のサポートを受けながら、トヨタ・アクアを用いた点検整備や、2008年のスーパーGT500でシリーズチャンピオンとなったザナヴィ・ニスモGT-Rのタイヤ交換などを体験しました。

会場内の各所ではピンクのツナギを着た女性が「めざせ！整備女士 整備男士」と題したチラシを配布するなど、若手人材の確保に向け自動車整備士の魅力を、2日間合計で68,752人に達した来場者にアピールしています。



ピンクのツナギを着た女性が自動車整備士の魅力を訴求するチラシを配布



本職の整備士が子供たちに点検整備のポイントをわかりやすく説明



レーシングメカニックのサポートを受けレーシングカーのタイヤ交換を体験

NGP 今月のCO<sub>2</sub>削減量

リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成26年10月：4,271t



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成26年10月：25.7t

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO<sub>2</sub>削減効果参考値を算出しております。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。



# リサイクル部品を業界全体の発展と社会貢献に幅広く活用

(株)広川自動車工業 (北海道札幌市)



エコな整備・修理を希望するカーオーナーに優良な整備事業者を紹介するWebサイト「NGPエコひろば」(<http://www.eco-hiroba.net/>)。同サイトにご登録いただいている整備・修理工場は約4千件に達しております。

NGPエコひろば登録工場をご紹介します本コーナー、3回目となる今回は北海道札幌市清田区を主な商圏とする(株)広川自動車工業です。同社の広川善教社長と、広川太一取締役を訪れ、リサイクル部品の幅広い有効活用法について、お話を伺いました。

同社は1976年(昭和51年)に整備工場として創業し、その後大型車整備、钣金塗装へと事業を拡大しました。特に钣金塗装については、広川社長が独立前、見積りとリサイクル部品の活用では先進的だったという大阪の工場で学んだノウハウを活かし、下請けに頼らず直需とDRPのみで事業を営んでいます。そうした経緯もあり、総修理費用の低減に有効なリサイクル部品は、同社では創業間もない頃から積極的に活用されてきました。

同社が商圏とする札幌市清田区は、同区の調査によれば約45,000世帯のうち99%が自動車を保有しており、かつ複数台所有する世帯が4割以上にのぼっています。しかも通勤・通学で利用する割合は75%と高く、同区内において自動車は日常生活に必要不可欠な存在となっています。

そうした事業環境において、同社に入庫する車両は「5台に1台が車齢13年超の低年式車で、事故や故障が発生しても代替せず修理する人が多い」(広川取締役)傾向にあります。そのため工場内は常に入庫車両で溢れており、「混んでいるから入庫したというカーオーナーも少なくない」といいます。

しかしながら、2012年10月より始まった自動車保険等級制度改定の影響は大きく、

現在の月間平均入庫台数は改定前の約100台から75台にまで減っており、一方で自動車保険を使わず自費で修理する割合はおおよそ半数を占めるようになりました。

「NGPエコひろば」へは等級制度改定とほぼ同時期、NGP組合員の勧めをきっかけに登録しました。以前からの「リサイクル部品活用推進店」に「NGPエコひろば参加登録店」のステッカーも待合スペース内に掲示して、その存在をアピールしています。

これらをはじめ、同社が積極的にリサイクル部品の活用を周知・提案していることもあり、昨今は総修理費10～20万円、軽自動車から中型セダンクラスまでの車種で、リサイクル部品を活用するケースが増えました。

例えばドア交換の場合、「新品は単品供給しかないため部品代は約5万円、工賃もバラバラの部品を組み付けなければならない分割高になりますが、Assy供給のリサイクル部品なら部品代は約3万円、工賃も塗装費と車両へのドア取り付け費用だけで済みます」ので、カーオーナーに対しては「安く済んだ分を他の修理・整備に充てるようになりました」。また、「保険修理における保険金の総支払額も抑えられるため、損害保険会社との信頼関係構築にも役立っています」。

同社では機能部品の整備においてもリサイクル部品を活用するケースは多く、一例として片側のみヘッドランプの交換が必要な場合は、「新品に交換すれば光量や外観の差が大きくなるため、同程度に合わせる」のに使用しています。

なお、カーオーナーへリサイクル部品を提案する際は、「新品交換部品が必ずしも品質がよく、常にフィットするとは限りません。ドアはチリが、サスペンションはアライメントが合わず、新車生産時より使用されているリサイクル部品の方が正しく調整できることがあります」と、リサイクル部品がむしろ高

品質である場合もあることを、品質保証の存在とともにアピールしています。

そして、「中古」ではかえって安っぽい、ネガティブな印象を与えてしまいますので、リサイクル部品を「中古」部品とは絶対に言いません。さらに、CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献でき、地球環境に優しい「エコパーツ」と言えば、もっと印象が良くなります」と広川取締役は言います。

そのうえ同社では、リサイクル部品を社会貢献にも活用しています。そのひとつが、NGPギャランティシールに貼付されているベルマークの収集・提供です。「ベルマークは自動車整備・修理工場にとって、特別な労力を割くことなく地元の学校や被災地に貢献できる、大変有意義なものです。これを自らが所属する組合にも広げていきたいと考えています」。

同社では、近隣の整備・修理工場や損害保険代理店を対象に、リサイクル部品の提案・活用法を学ぶ講習会や、生産・品質管理体制を確認・周知するためのリサイクル部品工場見学会を実施すると共に、地元の生協などでカーオーナーや子供たちに向けた「リサイクル部品祭り」を開催して、自動車およびリサイクル部品の啓蒙を通じた入庫台数拡大に努めています。

また、リサイクル部品業者に対しても、ラジエーターやフェンダーの補機類を外さない状態での納品や、使用後大量に発生する段ボールの巡回回収およびリターナブル梱包材の活用拡大などを提案しています。

「ディーラーでは活用しにくいリサイクル部品は“やったもの勝ち”。独立系整備・修理工場の強みになることは間違いありません」と、自社のみならず業界全体の発展のためリサイクル部品を活用していくという、極めて強い意志と広い視野に基づいた取り組みは、もうすでに始まっています。



広川善教社長(左)、広川太一取締役(右)と、大量に回収していただいたNGPギャランティシールが入ったベルマーク収集箱



「リサイクル部品活用推進店」と「NGPエコひろば参加登録店」のステッカーを待合スペース内に掲示してその存在をアピール

## 「第7回自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」を開催

### NGPエンジン用リターナブル梱包材の 安全性とコスト低減効果を実証

(株)NGP (長谷川利彦社長)、(株)ビッグウェーブ (服部厚司社長)、(株)JARA (北島宗尚社長)、ARN (岡田誉伯代表)、(株)SSG (古田欽一社長)、(株)ブロードリーフ (大山堅司社長)、(株)システムオートパーツ (土居英幸社長)、部友会 (鳩村昭二郎会長) および大手運送会社による「自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」が、11月26日に(株)JARA本社 (東京都中央区) で開催されました。

第7回となる今回は、前回決定されたエン

ジン、トランスミッション、マフラーの梱包作業動画マニュアル作成のため、各社が撮影した動画を視聴し、各社の資材コスト、梱包時間、人件費を含めた総合的な梱包コスト、そして梱包作業時および運送時の安全性まで詳細に比較しました。

その中で、NGPのエンジン用リターナブル梱包材については、梱包時間が6分10秒と最も短く、かつ樹脂製のパレットやエンジン固定用のバンドが備わっており安全性も高いため、運送会社からは「標準化が望ましい」



との評価を得ています。

次回以降については、サイズが大きく梱包が困難な30系トヨタ・エスティマのバックドアおよびヘッドランプの梱包作業を各社撮影し、新たなマニュアルの作成に向け検証作業を進めることで合意しています。

## 多田自動車商会、「三木金物まつり2014」に出展

### 地元社会と密着し「廃車王」と 自動車リサイクル部品をPR

兵庫県三木市が主催する「三木金物まつり2014」が11月1・2日、同市役所前で開催され、今回もNGP組合員の多田自動車商会 (兵庫県三木市) が出展しました。

同イベントは、刃物の産地として知られる三木市の伝統と歴史を体感できるイベントです。あいにくの雨模様となりましたが、会場には各地から13万6千人の来場者が集まりました。

その中で多田自動車商会は、LEDライト付きボールペンをプレゼントする輪投げコーナーを設け、来場客へ積極的に声をかけながら「廃車王」による廃車買い取りサービスのPRに励みました。また、毎年恒例となっているエンブレムの販売を今年も実施し、自動車リサイクル部品への興味喚起に結びつけています。

同社は「少しでも多くの方に当社を知って



いただきたいという想いで毎年出展していますが、今年もその想いは達成できたと思います」と、地域密着型イベントへの継続的な参加に確かな手応えを得ています。

## 中国物資再生協会訪日団を 対象にした研修会に協力

中国の廃旧資源の回収・リサイクル企業等の会員からなる、中国物資再生協会の会員19名が、日本のリサイクル業界の視察・自動車解体工程・リサイクル部品生産工程の工場見学および研修会参加のため来日されました。

11月10～14日の間は、NGP事務局本部、(株)マルトシ青木、(株)多田自動車商会を訪問され、またNGPの中国での知名度

向上にご尽力いただいている(株)国際リサイクル事業協会 (代表者は多田幸四郎・多田自動車商会会長) の企画による研修会には本部並びにNGP組合員2社も実施に協力いたしました。

参加者はすでに中国において解体業を営んでおられる方々で、今後リサイクル部品事業への参入を視野に入れている方も多く、大変真摯な姿勢で受講されていました。



研修会終了後には確認試験を実施し、全員に感想文を提出してもらうなど、NGPの研修手法も取り入れられました。研修会は好評のうちに終了し、多くの方から「大変有意義な研修会だった」とのご意見をいただきました。以降も、第2陣・第3陣の来日が予定されています。

#### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
<http://www.ngp.gr.jp/>

#### 株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201  
<http://www.ngp.co.jp/>